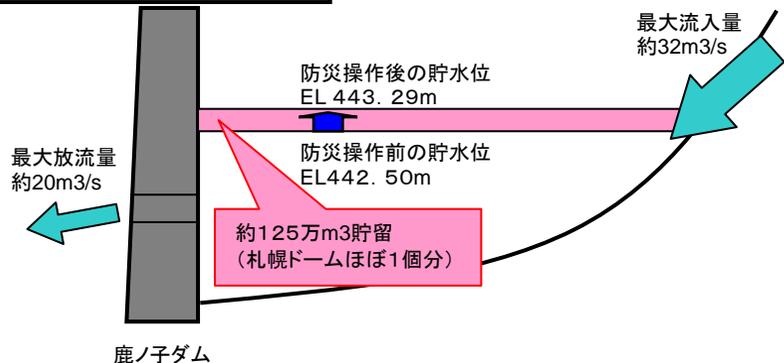


鹿ノ子ダムの防災操作効果について

平成23年9月1日から降り始めた雨により、常呂川の上流にある鹿ノ子ダムでは、**河川の水位を低減させる防災操作を実施しました**。ダムに流れ込んでくる水の一部を貯め込み、下流に放流する水を少なくすることで、置戸町市街部学友橋（置戸水位観測所）付近の水位を**概ね0.1m程度低減**させたと想定されます。

鹿ノ子ダム貯水位状況図



学友橋から下流方向



鹿ノ子ダムの貯留状況

防災操作前

8/31 AM 11:00頃
(EL 442.46m)

防災操作後

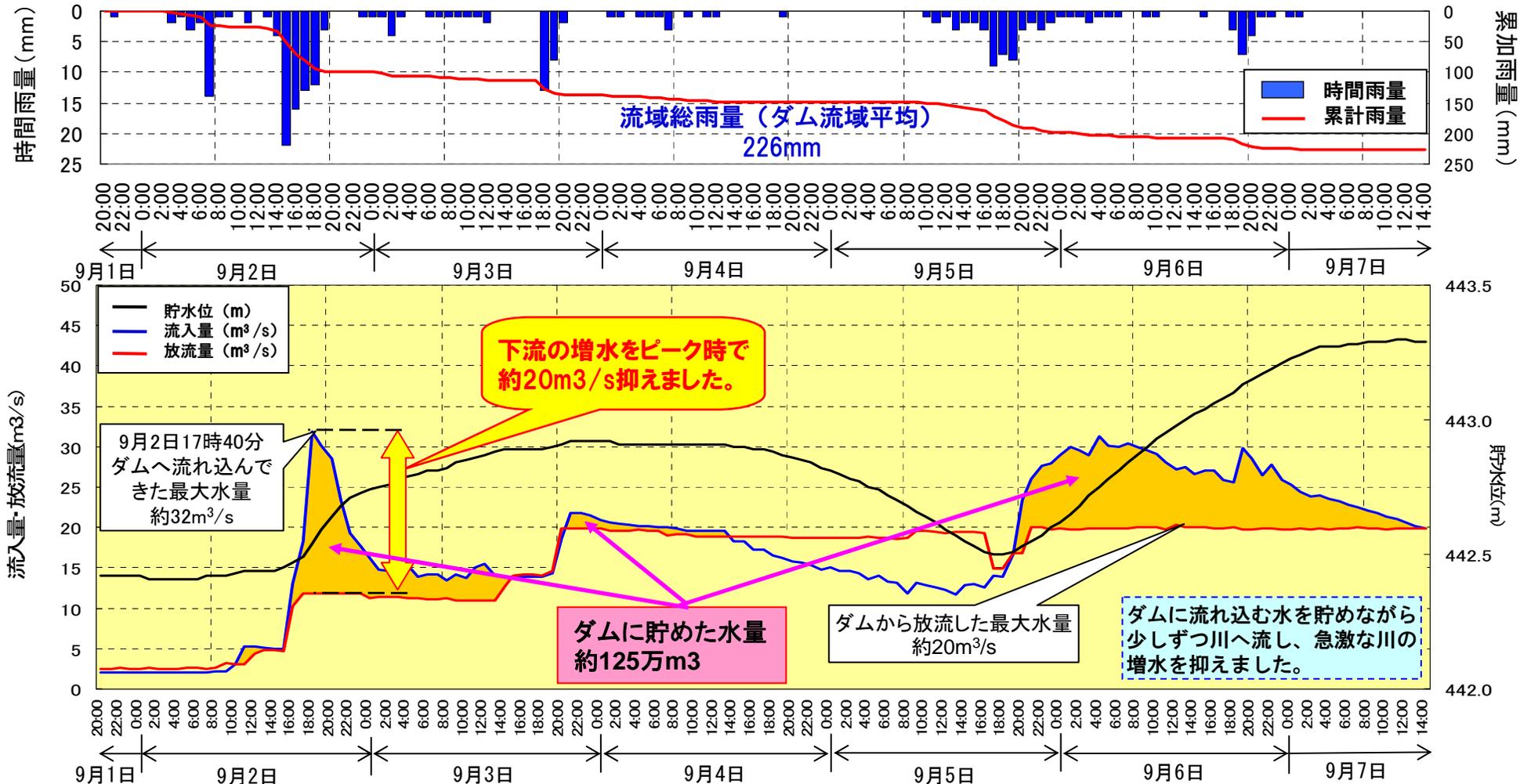
9/7 AM 9:00頃
(EL 443.29m)

0.8m程度水位上昇



鹿ノ子ダムでの防災操作状況

今回の出水において、鹿ノ子ダムでは、最大で毎秒約32m³の流入がありました。それに対し下流への放流を最大でも毎秒20m³程度に抑えることで、差分をダムにため込み、**約125万m³**（札幌ドームほぼ1個分）の洪水を貯め、下流河川の水位低下を図ることが出来ました。

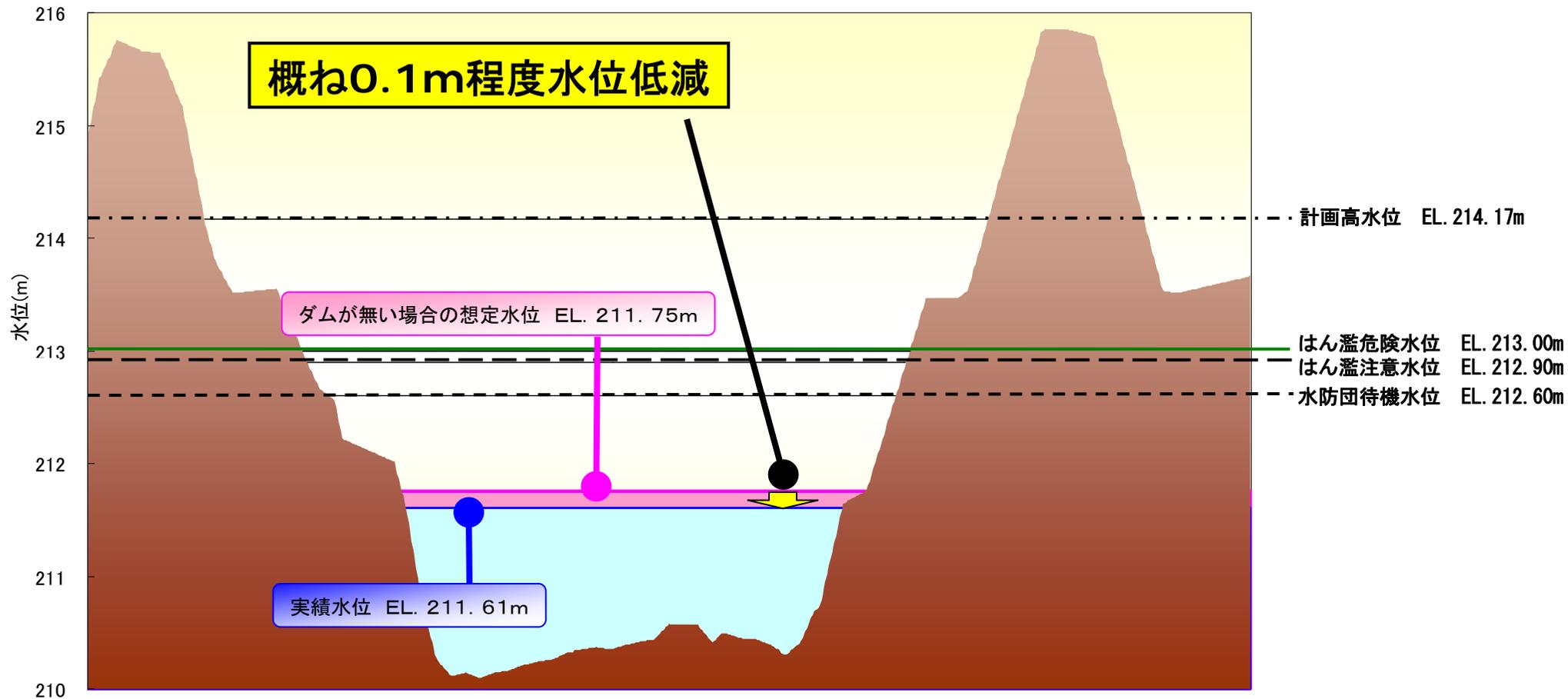


※当該資料は速報資料であり、今後精査により変更があり得ます。

鹿ノ子ダムによる水位低減効果（置戸水位観測所地点）

鹿ノ子ダムの防災操作により、常呂川の置戸町市街部学友橋（置戸水位観測所）付近の水位を概ね0.1m低減させたと想定されます。

◆置戸水位観測所地点（鹿ノ子ダム下流約22km）



※当該資料は速報資料であり、今後精査により変更があり得ます。